

<特集>

山本太郎は「令和日本の孫文だ」

この度の参議院選挙ほど筆者を反省させてくれた選挙はない。というのも、選挙期間中、本紙の若手記者から教えられるまで「れいわ新選組代表・山本太郎」の街頭演説が日を追うごとに大衆から熱狂的な支持を得ていることを知らなかったからである。

なぜ知らなかったか？ 山本太郎とれいわ新選組の存在は、大手新聞・テレビといったマスコミでは完全に無視黙殺されていたからである。本紙でメディア批判も展開する筆者ではあるが、この歳（84歳）では新聞と全国放送のテレビ報道に情報源が偏る。油断すれば新聞とテレビが報じない世の出来事は知らないままとなる。

山本太郎の名は諸氏もご記憶であろう、平成25年（2013年）天皇陛下の秋の園遊会における直訴事件で知っていた。特に筆者の世代にとって天皇陛下は敬しうやまう御方であり、若僧議員が恐れ多くも陛下に手紙を手渡しするなど不敬の極みである。そうした先入観もあったから、本紙若手記者に「社主、今度の参院選、山本太郎が台風の目となりますよ」と言われても聞く気にもなれなかったのである。

すると、そっぽを向いた筆者の眼前に、若手記者は自分のスマートフォンを置くとYouTubeで山本の演説動画を見せ始めたのである。最初は「仮にも政治家がTシャツ一枚で有権者に辻説法など相変わらず失敬な若僧だ」と思っていた筆者だが、あっという間に山本の演説に魅入られてしまった。そして「これは大変な革命児が登場した」と驚嘆し、この青年に感動と敬意さえ抱き、大手新聞とテレビで見なかったとういうだけで、山本とれいわ新選組の台頭を知りもしなかった自分を反省したのであった。

参院選挙投開票前日の7月20日、新宿駅西口で行われた山本太郎とれいわ新選組の選挙戦最後の街頭演説には、なんと7,000人以上の聴衆が詰めかけた。しかも支持者の組織的な集合ではなく、初めて山本を目にする通りかかりの人々も足を止めて演説に耳を傾ける自然発生的な大群衆なのである。戦後政治史に名を刻む奇跡的な光景といって良い。

現場にはマスコミ各社の取材班も大挙していた。しかし、れいわ新選組フィーバーがテレビに映されることは事実上、一切なかった。マスコミ業界では視聴率稼ぎが何よりの至上命令だ。突如現れた大衆の若き英雄・山本太郎のニュースなら連日高視聴率が取れるはずだが、異様なほどの完全無視。理由は明らかだった。安倍政権が山本を本気で恐れたからである。テレビ局は総務省許認可事業者だ。

官邸の意向がテレビ各局上層部へと伝えられ、そこから番組制作の現場に「山本太郎とれいわ新選組は取り上げないように」と指示が降ろされる。仮に具体的な指示がなくてもテレビ局は忖度（そんたく）する。テレビ局が恐れる権力は政権と広告主である。

自民党は政権であるだけでなく選挙活動中にテレビコマーシャルを流してくれる大きな広告主様でもある。そんなテレビ媒体が「安倍政権を倒せ！」とシュプレヒコールを叫ぶ山本太郎の姿を映すことはあり得ないのである。山本がひとりで吠えていただけなら、逆にマスコミは「国会の野良犬がひとり相撲」などと大いに「太郎叩き」を放送したであろう。

ところが、山本の演説は「魂が震えた」「政治家の演説で初めて泣いた」という庶民の絶賛と共にその動画が SNS で瞬く間に全国に拡散された。

そればかりか、山本太郎がれいわ新選組をたった独りで立ち上げた 4 月 10 日から選挙直前のわずか 3 カ月間で 4 億円もの寄付金が、貧しい数万人の一般大衆から集まったのだから、安倍政権が「余裕を演じながら」震撼するのも無理はない。山本潰しのためなら、芸人の闇営業スキャンダルなどというどうでもいいニュースを長時間にわたって放送しては、世間の耳目を逸らすのに必死であった。

幸か不幸か日本国民の多数派は、いまだに新聞・テレビでしか世論を形成しない。政権にとっては、山本がいくらインターネットで注目されようが、特に山本の熱気が映像と肉声で伝わってしまう危険があるテレビにさえ映さなければ良いのである。事実、選挙期間中のインターネット動向に関するある調査では、れいわ新選組公式ウェブサイトへのアクセス数は、自民党のそれを圧倒的に上回るという。

山本太郎は投開票の結果を受けての記者会見で、れいわ新選組の躍進を伝えなかったマスコミに対する見解を求められ、「言葉を選ばずに言わせてもらえば（メディアは）どこまで自民党のお尻を舐めるんだろう」と直言。その言葉を俯きながらノートパソコンに打ち込む NHK 記者の姿が YouTube でも公開された。そしていま、自身が落選したものの山本太郎には絶大な支持が集り続けている。

現政権が何よりも山本太郎を恐れたのは、日本の政界どころか世界も仰天した ALS(筋萎縮性側索硬化症)患者・重度身体障害者・国際金融のプロ・現役創価学会員など、前代未聞の9人の立候補者が居並んだ、れいわ新選組を組織した指揮官としての強靱(きょうじん)さだろう。山本太郎の凄さは、敵を味方にしてしまう人間力だ。会見に詰めかけたメディアにも「皆さんが、なんとか記事にならないか放送できないかと頑張っていることも知っています」と、マスコミの腐敗を一方向的に断罪するのではなく、組織に対して無力な被雇用者としての記者たちにも理解を示した上で「でもマスコミの力って大きいですよ」と共闘を促すのである。これに感化されるメディア記者は少なくないはずだ。

こうした場面のひとつひとつで、山本の生の声は人民を動かすのである。安倍政権はあまりにも山本太郎をなめていた。まさか「**国会の野良犬**」が、精鋭軍隊のような身命を賭す覚悟の同志(しかも全員、政治未経験者)と絆を結び、この狼煙に呼応して大衆が決起するなどは想像さえしなかったのである。

山本太郎の凄まじい求心力は、選挙翌日に総務省が発表したデータが雄弁に物語っている。山本は全国比例代表制で個人ではトップの99万票を獲得している。自民党が当選した19議席の合計得票数が1,771万票だから、単純な割り算では自民党候補者1名は93万2千票となり、今回の参院選で山本太郎は議席という意味では「**落選**」だが、得票数ではひとりで自民党に圧勝していたのである。しかも、当選した2議席への得票率は、政党要件の条件となる2%の倍の4%を記録している。それだけではない。

山本太郎は、始めから自分が落選することを想定した上で比例代表制「**特定枠**」の1位にALS患者の「**船後靖彦氏**」、2位に重度身体障害者の「**木村英子氏**」を配した。

最大の社会的弱者を国会議員として国政のど真ん中に送り込めば、メディアは絶対に無視できない。寝たきり状態の2名の国会議員は、間違いなく世界政治史上でも初めてのことだ。政権与党も「さっさと答弁しろよ」などと言えるはずがない、最大級に厄介な野党議員が誕生したのであり、彼らが議会に臨む国会中継の視聴率は、ヘタをすれば紅白歌合戦を超えるのではなかろうか。さらにこの2議席の獲得によって、れいわ新選組は政党要件を満たし「**確認団体**」から「**政党**」になった。山本太郎は議席を失っても「**党首**」として、与野党の代表らと同列の座についたのである。たとえば、議員となった船後・木村両氏の介助者をも兼ねた党首としての山本は議員でなくても堂々と国会に登院可能で、そこには常にマスコミが群がることになるだろう。

他の候補者のように、当落で一喜一憂するレベルの戦略ではないのである。

ネット上では「**障害者を利用するのか**」との山本に対する批判も散見されたものの「**炎上**」さえしない。なぜなら、当事者である船後・木村氏が自分自身を利して現政権の打倒を決意したからであり、そうさせた山本の信念と言葉が本物だったからである。だから、安倍政権は山本太郎が落選しても祝い酒どころではない。彼らは私益を貪る悪政に精を出すものの、決して馬鹿ではないのである。

ある意味では、今回の参院選で山本の戦略に「**乗せられてしまった**」口惜しさと、落選してなお寄附金が集まり続ける圧倒的な存在感に戦慄しているだろう。落選した人間に支持者とカネが集まり続けるなど、永田町の論理ではあり得ないことだからだ。

新党を立ち上げて参院選に挑んだ山本太郎には、選挙参謀の働きがあったにせよ政治戦略というより、もっと単純明快な原理が窺える。それは「**義**」である。

紀元前の中国の思想家・墨子（ぼくし）が説いた「**義**」とは、民族や法や政治を越えた、人類共通の正しさを意味する。街頭演説で大衆を感心させる経済政策を語った山本太郎だが、それが彼の存在感を押し上げたのではない。間違っているものは権力だろうがメディアだろうが、自分の食いぶちを失ってでも正面突破しようとする「**義**」に、名もなき庶民たちが魂を打たれ、そして後に続けと進軍を開始したのである。

戦後日本の政治に「**義**」があったことなどなかったからだ。

山本太郎は「**令和日本の孫文**」である。

孫文の中国革命は、孫文の政治思想に影響された軍人の武装蜂起から始まったが、山本太郎の革命は銃をインターネットに変えて民衆が蜂起したのである。

孫文の革命も一度で成功したのではない。これから衆議院選挙に向けて、「**政党**」となった「**れいわ新選組と党首・山本太郎**」はテレビで見ない日がない存在となるはずだ。そうなればインターネットに関りを持たない地方の山村の高齢世帯にも山本の「**義**」が広がる。

長生きはするものである。7年前まで芸能人のひとりだった青年が国政を揺るがす英雄にまで成長した姿を見られるのだから。

陰ながら本紙も「**山本太郎とれいわ新選組**」の今後を応援していきたい。